

# 新市まちづくり市民懇話会

## 【報告書】

平成 29 年 5 月

小田原市・南足柄市「中心市のあり方」

に関する任意協議会事務局



## 1 目的

小田原市・南足柄市「中心市のあり方」に関する任意協議会（以下、「任意協議会」という。）が、小田原市と南足柄市（以下、「両市」という。）が合併した場合の新市の将来に関するビジョンを示す新市まちづくり計画（以下、「計画」という。）を策定するにあたり、新市のまちづくりに関する市民意向を把握するため、新市まちづくり市民懇話会を開催した。

## 2 実施方法

- (1) 参加メンバーを班分けし、平成 28 年 7 月に実施したアンケート結果や両市の総合計画等を参考にしながら、班ごとにテーマについて話し合うグループワークの後に、班内で出された意見を模造紙にまとめ、発表するワークショップ形式で 5 回にわたり実施した。
- (2) 懇話会では、各グループの意見は共有するが、意見の一本化や統一的な方向性の検討はしないものとした。
- (3) 懇話会の意見は、計画における新市の重点的な取組等を取りまとめる上での参考とする。

## 3 参加者メンバー

### (1) メンバー構成

両市の市民各 10 人、合計 20 人（うち公募 10 人、団体推薦 10 人）

【内訳】男性 12 人、女性 8 人

10 代 1 人、20 代 2 人、30 代 7 人、40 代 5 人、50 代 5 人

《性別・年齢別構成表》（公募メンバー：○ 団体推薦メンバー：●）

市名	小田原市				南足柄市			
	男性		女性		男性		女性	
10 代			○					
20 代			○		○			
30 代		●●	○○		○	●		●
40 代		●			○	●	○	●
50 代	○	●●			○			●
小計	1 人	5 人	4 人	0 人	4 人	2 人	1 人	3 人
合計	6 人		4 人		6 人		4 人	

(2) 公募メンバー：各市5名

公募方法

- ・両市の公共施設等に募集要項及び応募用紙を配布
  - ・任意協議会のホームページ上で募集要項及び応募用紙を公開
- 上記方法で周知した応募用紙を持参・郵送・メールで受け付けた。

公募期間

平成28年10月24日～11月14日（当日消印有効）

募集対象

次の条件をすべて満たす方

- ・平成28年10月1日時点で18歳以上60歳未満の小田原市または南足柄市の市民（小田原市または南足柄市の職員・市議会議員でない方）
- ・平成28年12月に開催するキックオフ（事前説明会）と、平成29年1月～3月（主に平日夜間の午後6時～9時のうち2時間程度）に5回開催する懇話会に参加可能な方

選考方法

両市の職員からなる「新市まちづくり市民懇話会メンバー選考委員会」において審査し、選考した。

(3) 団体推薦メンバー 各市5名

下記、団体からメンバーの推薦をいただいた。

団体種別	市	推薦先団体
商工業	小田原市	小田原箱根商工会議所
	南足柄市	南足柄市商工会
観光	小田原市	一般社団法人 小田原市観光協会
	南足柄市	南足柄市観光協会
子育て ※青少年育成含む	小田原市	小田原市青少年育成推進員協議会
	小田原市	ぴんたっこ運営協議会
	南足柄市	南足柄市青少年育成推進員協議会
	南足柄市	南足柄市子ども・子育て会議
市民活動	小田原市	pp@seisho（プレイパークをつくる会@西湘）
	南足柄市	南足柄市 市民活動推進委員会

(4) アドバイザー 大杉覚首都大学東京大学院教授

懇話会が円滑に進むよう、専門的な見地や中立の立場から助言や指摘をいただいた。

#### 4 全体スケジュール

	日時・場所	内容・テーマ
事前説明会	平成 28 年 12 月 21 日 (水) 午後 7 時 00 分～8 時 40 分	○メンバーの顔合わせ ○2市での協議に至った経緯や現在の協議状況の説明
	小田原市役所 601 会議室	○懇話会の運営方針の説明 ○各種資料の配布
第 1 回	平成 29 年 1 月 24 日 (火) 午後 7 時 00 分～9 時 00 分	○アドバイザー講話 ○市民の考えるまちづくりの方向性を考えるとして 「地域福祉を推進し、高齢者福祉や障がい者福祉が充実したまちづくり」「安心して子育てができる環境が整ったまちづくり」について検討
	小田原市役所 601 会議室	
第 2 回	平成 29 年 2 月 14 日 (火) 午後 7 時 00 分～9 時 30 分	○「小田原市の良いところ、悪いところ」、「南足柄市の良いところ、悪いところ」について検討
	小田原市役所 601 会議室	
第 3 回	平成 29 年 2 月 23 日 (木) 午後 7 時 00 分～9 時 20 分	○「安全・安心に暮らすために」、「子どもや未来を担う人を育み、学び続けるために」について検討
	南足柄市役所 401・402 会議室	
第 4 回	平成 29 年 3 月 9 日 (木) 午後 7 時 00 分～9 時 10 分	○「健康で心豊かに暮らすために」、「活気があり魅力ある暮らしのために」について検討
	南足柄市役所 401・402 会議室	
第 5 回	平成 29 年 3 月 28 日 (火) 午後 7 時 00 分～9 時 50 分	○「2市が一つになる事で、新たに出来そうな事を見つける」をテーマに検討 ○アドバイザーからのコメント
	小田原市役所 601 会議室	

## 5 懇話会で把握した市民意向

当初は、市民が望むまちづくりの方向性の実現に必要なことや、両市の強みや弱みを合併することで発展、補完するために必要なことなどを話しながら、最終的に合併後の将来像を考えることをテーマとしていたが、第1回開催時のアドバイザーからの講評の中で、「2市が一つになることで、プラスアルファの効果が出る部分は何かを考えることが必要」との意見をいただいたことから、第2回以降の内容を見直した。第2回からは、創発（※）という考えを取り入れ、「2市が一つになることで新たに出来そうな事を見つける」を最終的なテーマに、両市の特徴を共有しつつ、理想とする姿に向け、2市が一つになることで可能になること、出来そうな事を、行政では欠けている市民目線での視点や、身近な地域や広域的な視点、実施する上での短期、中期、長期といった時間的視点を意識して見出すこととした。

懇話会では、各回でテーマを設定し、テーマごとにグループワークを実施した。グループワークでは、テーマごとに様々な意見がだされたが、各回でのそれぞれのテーマを通して、多く出された意見をまとめると以下の5つの分野に関するものであった。

（※）創発とは、 $1 + 1 = 2$ ではなく、3にも4にもなるようなプラスアルファを生み出すこと。

### （1）安心して子育てができる環境の整備

#### 【主な意見】

- 子育てを、マタニティ期・出産・子育ての3本柱で考え、切れ目の無い支援体制の整備が必要。
- 待機児童をゼロとするために保育の受け皿の拡充やそこで働く保育士を確保するための対策が必要。
- 里帰り分娩や病院数の確保、専門的な妊婦相談など安心して出産できる環境が必要。
- 子どもの医療費や保育料の助成を実施し、子育てに必要な出費を減らす対策が必要。  
また、子どもから大人までが集まり、相談や交流できる場が必要。
- 公園や児童館、放課後子ども教室など、子どもが安心して遊べる環境が必要。
- 子育てに関する相談を、地域の子育て経験者や専門家などに相談できる場所が必要。
- 子育て中の人同士の座談会など子育てへの不安を解消する仕組みが必要。
- 子ども食堂などの子どもの居場所づくりを通じた世代間交流（ボランティアで地域の子どもとシニア世代が交流）が必要。
- 地域の学生や高齢者が、地域の子どもに勉強を教えるなど、地域での学習支援の場が必要。

#### 【この分野に関するアドバイザーからのコメント】

- 子育てなどの分野でのキーワードは「共生」ではないか。さまざまな人と人との支え合いやつながりが非常に重要である。

- 支え合いやつながりを求めている人たちほど、自身ではなかなかできない実情がある。恵まれているとは言えない人たちがいることをどう考えていくのか。将来の夢を描いていくことも重要だが、見えにくい部分にしっかりと光を当てて考えることは、重要である。

## (2) 地域を担う人材の育成

### 【主な意見】

- 地域の魅力を認識し、地域に誇りを持てるように、子どもが地域に関わる機会をつくる必要がある。
- 地域活動などを通じ、さまざまな世代の人と交流し、お互いの理解を深める機会が必要。
- 伝統的な職業の体験や農業体験、自然体験など地域密着型の教育により、地域への愛着を持つ必要がある。
- 地域のつながりを深め、世代間交流を促進することで、地域の風習や伝統が継承される機会をつくる必要がある。
- 大学や企業の誘致によって、若い世代の人が高校卒業後も地元に残れるような仕組みが必要。
- 地域の人が地域に関心を持ち、市民参画などを通じて地域を良くしていくための活動をする必要がある。

### 【この分野に関するアドバイザーからのコメント】

- この地域に住んでいる人は大学まで通うことができ、深刻ではないかもしれないが、全国的に見れば人口の流出が始まるのは高校生世代からである。この地域には、高校生や大学生がいる。そういった若い世代を地域の中でどう位置付けていくかが重要である。
- 市民協働で重要なことは、参加と対話が一番のベースにあり、その機会をどの様に保障していくかである。市に用意してもらうことも必要だが、自分がその支える側に回れるか、そういった発想で取り組めるかが重要である。

## (3) 誰もが安心して住める地域づくり

### 【主な意見】

- 高齢者への支援として、ケアタウンの推進や病院機能の充実を図る必要がある。
- 健康づくり教室への参加を促すことや他世代との交流による社会参加により、生きがいを持つことで健康寿命を長くするための取組が必要
- 全ての人が安心して暮らせるように、医療体制を充実させ、市立病院を中核とした地域ごとの病院の連携が必要。
- 行政は市民が見ても分かりやすい情報発信を意識し、市民は、自分の周りの人と情

報の共有をすることが必要。

- 介護が必要な人を家族だけでなく、地域で支えるような助け合いが必要。
- 健康診断の受診、ウォーキングやスポーツを通じた健康づくりなど自分の健康を自分で管理できるようになること（セルフメディケーション）が必要。
- 運動による健康づくりや他の世代の人との関わりが持てる場などを作ることで健康寿命を延ばせる環境をつくる必要がある。

#### （４）地域の活性化

##### 【主な意見】

- 地域の農林水産物や伝統的な工芸品などの地場製品のブランド化や、1年を通して各地域で開催されるイベントや祭りを活用し地域の魅力を高め、国内外からの観光客の増加を目指す必要がある。
- 市のホームページや公式SNS、広報紙などで、市内外へ地域の魅力を発信することで、市民が市の魅力を知り地域に愛着を持てるようにすると共に、訪れた人がSNSなどで紹介したくなる歴史・文化を生かした観光コンテンツを整備することが必要。
- 公共交通・道路網のネットワークを強化し、箱根へのアクセスを向上させつつ、小田原駅前の再開発や、海から山までの観光スポットがあることPRし、市域内の回遊性の向上を図ることが必要。
- 他地域に若い世代が流出することを防ぐため地域で学ぶ・働くという選択ができるように、積極的に大学や企業の誘致を行うことが必要。
- 両市の地域資源である小田原城や最乗寺といったスポットの歴史や文化を生かし、国内外からの観光客誘致が必要。
- 箱根への観光客を呼び込むために、箱根への導上にある観光スポットなどをPRし、両市だけでなく、県西地域での取組を活用することが必要。
- 海、山、川などの豊かな自然を享受できるライフスタイルを売り出したり、子育てに関する支援制度を拡充したりして、若い世代の流入や両市出身者のUターンを促すことが必要。
- 地域ごとのスポーツイベントを合同で行うなど、スポーツを通じて、より広い地域で交流することが必要

##### 【この分野に関するアドバイザーからのコメント】

- 市の魅力を発信するシティプロモーションでは、市民が市の魅力を知っていることが重要である。
- 交通網を維持していけるかは非常に重要であり、過疎地域では既に維持できなくなっている。20年後、30年後にこの地域は維持できているのか、それをどういった枠組みで考えるのかが必要である。



○現に困りだしている地域があるのでないか。そういった地域の方たちとどう向き合  
って一緒に考えていくかが課題といえる。

## (5) 防災体制の強化

### 【主な意見】

- 地域域内に沿岸部～山間部まであり、地域ごとに想定される災害が違うため、その  
災害の特性に合わせた対応を広い視点で考えることが必要。
- 各家庭での防災対策として備蓄をすることは重要だが、豊かな農産物や水などの資  
源を災害時に融通できる仕組みを考えることが必要。
- 災害対策として、山や川の環境整備をし、環境整備と自然保護のバランスが取れた  
形で次世代に引き継ぐことが必要。

5つの分野すべてに共通して、「市域内の様々な課題を解決するためには、行政が主体  
となり、適切な対応をしていくことは必要であるが、自分たちが主体となって、活動し  
ていくことも必要」という「市民協働」に関する意見が出された。

また、懇話会では上記の5つの分野以外に次の意見があった。

### 【主な意見】

- 街灯や歩道、公園など住環境の整備
- 図書館や美術品展示の機能を高め、地域の文化を発信
- 公共施設のあり方
- 税収を増加させるための方策

懇話会での主な意見である5つの分野は、市民がこれからのまちづくりに求めている  
視点であり、各分野の意見を参考に計画におけるまちづくりの方向性や新市の重点的な  
施策を纏める。

## 6 アドバイザーからの全体総括

懇話会で出た意見ではまだまだ視野が狭い。もっと殻を破って様々な発想で考えてい  
ただきたい。何をしてもらおうか考えても構わないが、自分としてもう少しこんなことが  
できるのではないか、ということを考えていただきたい。

また、まだ、合併するかは決まっていない。これから皆さんがどう判断するか、ある  
いは、皆さんが周りの人とどう一緒に考えていくことができるかにかかっている。任意  
協議会で結論が決まるわけではなく、むしろ皆さんが決めていくことだと、しっかりと認  
識していただきたい。



# 会 議 録 等

第1回【平成29年1月24日（火）】・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

第2回【平成29年2月14日（火）】・・・・・・・・・・・・・・・・・・21

第3回【平成29年2月23日（木）】・・・・・・・・・・・・・・・・・・27

第4回【平成29年3月 9日（木）】・・・・・・・・・・・・・・・・・・33

第5回【平成29年3月28日（火）】・・・・・・・・・・・・・・・・・・40



## 各回のワークショップにおける意見・提案の詳細

### 第1回

平成 29 年 1 月 24 日 (火) 午後 7 時 00 分～9 時 00 分

小田原市役所 601 会議室

「地域福祉を推進し、高齢者福祉や障がい者福祉が充実したまちづくり」及び「安心して子育てができる環境が整ったまちづくり」の2つのまちづくりの方向性について、「求められていることは何か」「それを実現するためには何をすべきか」をグループで話し合った。

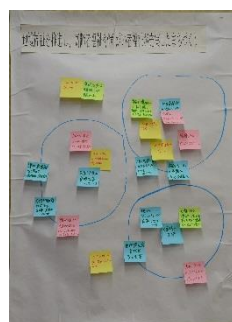
### 主 な 意 見

テーマ：地域福祉を推進し、高齢者福祉や障がい者福祉が充実したまちづくり

- 高齢者や障がい者が孤立せずに、地域の中で安心して暮らし続けることができるようにするために、地域コミュニティや各種福祉サービスの充実が必要。
- 高齢者の健康推進や生きがい対策の充実を図るために、地域活動などに取り組めるよう、社会参画しやすい環境づくりが必要。
- 高齢者と子どもの世代間交流の他、障がい者との交流など、お互いの理解を深める機会が必要。

テーマ：安心して子育てができる環境が整ったまちづくり

- 里帰り分娩などの対応が不十分だと思う。安心して出産できるように、病院数や病床数を増やしたり、専門的な妊婦相談を実施したりすることが必要。
- 子育て相談の充実のために、子育て経験者や専門家に相談できる場を増やすことが必要。
- 安心して遊べる環境を作るために、公園や児童館などの施設の他、放課後子ども教室等の充実が必要。



※左から 1 班、2 班、3 班、4 班の模造紙

1班 テーマ：地域福祉を推進し、高齢者福祉や障がい者福祉が充実したまちづくり

なぜこのまちづくりの方向性が選ばれたのか、求められていることは何か	そのまちづくりの達成に求められていることを実現するには、何をすべきか
<p>○若手不足</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートの回答者は高齢者が多い＝若者の関心が低い</li> <li>・高齢者を支える若者たちが必要</li> <li>・福祉の財源に不安を感じている＝お金がない</li> <li>・中核市での福祉のメリット・デメリットが見えない不安</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若者が住みやすい、住みたい町にする</li> <li>・雇用の増加</li> <li>・具体的な予算などの数値と用途を明確に示す</li> <li>・障がい者や高齢者にやさしいまちにすることで、移住者が増え、人口の増加</li> </ul>
<p>○安心安全なまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者や障がい者が孤立</li> <li>・障がい者が健常者とともに地域の中で生き生き暮らせる</li> <li>・高齢者が地域社会の中で安心して暮らし続けることができる</li> <li>・市域が広がる事で隔々まで行政の手が回らなくなるのではないか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域コミュニティの充実</li> <li>・各種福祉サービスの充実</li> <li>・不安が取り除かれる仕組みづくり</li> <li>・共働きの家庭と学校、学校と地域団体のつながりを広くする</li> </ul>
<p>○高齢者の健康</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ施設の充実</li> <li>・高齢者の健康推進や生きがい対策の充実</li> </ul>	<p>社会参画しやすい環境づくり 役所との架け橋となる施設の設置</p>

## 2班 テーマ：地域福祉を推進し、高齢者福祉や障がい者福祉が充実したまちづくり

なぜこのまちづくりの方向性が選ばれたのか、求められていることは何か	そのまちづくりの達成に求められていることを実現するには、何をすべきか
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 少子高齢化が進んでいる</li> <li>・ 今後、高齢者が増えるから</li> <li>・ 家族介護の限界</li> <li>・ 医療不足が不安だから</li> <li>・ 寝たきりになった時、面倒を見てくれる人を想像できない</li> <li>・ 市立病院が古い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域包括ケアシステム、地域で助け合い</li> <li>・ 市民ホールの予算を市立病院へ</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障がい者が働きやすい環境が整っていない</li> <li>・ 障がいのある人が孤立している気がする</li> <li>・ 共生社会の実現を望んでいる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障がい者への理解を深める機会を増やす（勉強会・交流会）</li> <li>・ 合理的配慮に対する行政・企業の対応</li> <li>・ 障がい者が支援されるだけでなく、つながりを意識できることが大切</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域コミュニティが希薄になっている</li> <li>・ 災害時の不安</li> <li>・ 隣りに住んでいる人を知らない、地域とつながりがない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 世代間交流が必要（自治会・子ども会）</li> <li>・ 美化DAYなどに進んで参加する</li> </ul>

3班

テーマ：安心して子育てができる環境が整ったまちづくり

なぜこのまちづくりの方向性が選ばれたのか、求められていることは何か	そのまちづくりの達成に求められていることを実現するには、何をすべきか
<p>○出産環境</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・育児休暇を取得しようと思ってもとりにくい職場環境</li> <li>・出産環境（市内での里帰り分娩など）が不十分</li> <li>・安心して出産したい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出産できる病院・助産院を増やす</li> <li>・妊婦相談など専門的な指導が受けられる</li> </ul>
<p>○保育環境</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育に対するニーズ（保育所・幼稚園・学童）</li> <li>・仕事と子育ての両立に不安</li> <li>・安心して預けることの出来る認可保育所の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後子ども教室の充実（小学生）</li> <li>・保育料の維持</li> <li>・保育収容数を増やす</li> </ul>
<p>○育児コミュニティ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てサポート相談が出来ない（核家族・移住者が増加）</li> <li>・核家族化で近所に頼れる人がいない</li> <li>・公共の子育て相談⇒予約がとりにくい（数か月後など）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経験者、専門家に相談できる場の強化</li> <li>・相談員などを増やす</li> </ul>
<p>○育児施設・公園</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子連れで出かけられる場所の充実</li> <li>・子ども関係の公共施設を充実させてほしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の維持や機能強化</li> </ul>
<p>○育児手当</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもにお金がかかり、将来への不安がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種補助の継続</li> </ul>



なぜこのまちづくりの方向性が選ばれたのか、求められていることは何か	そのまちづくりの達成に求められていることを実現するには、何をすべきか
<p>○親子の身近な居場所づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの学校生活に不安がある</li> <li>・児童館がない。赤ちゃんの居場所</li> <li>・公園が少ない</li> <li>・多様な人たちが集まれる場所がない</li> <li>・子どもの多い人が生活しにくい</li> <li>・安心して遊べる場所</li> <li>・子育てしやすい環境とはいえないから</li> <li>・ベビーカーが通りやすい道</li> <li>・子育てに関する意見を吸い上げる仕組みがない</li> <li>・震災対策が心配</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公園や児童館を作る</li> </ul>
<p>○仕事と子育ての両立</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事と子育てが両立しにくい</li> <li>・共働き家庭への対応</li> <li>・潜在的な待機児童</li> <li>・待機児童が多く、保育園に入れても自宅から遠い</li> <li>・移住者向けのサービスがない</li> <li>・子育ての環境に不安がある</li> <li>・頼れる人が近所にいない。共働きで、夫や妻が病気になった時のセーフティーネットがなく恐ろしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受け皿を増やす</li> <li>・空き家やマンションの空き部屋を利用して少人数保育</li> </ul>
<p>○医療</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小児救急を維持してほしい</li> <li>・小田原市立病院が古い</li> <li>・食育の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出産できる病院を増やす</li> <li>・市立病院の建て替え</li> </ul>
<p>○地域のあり方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昔は地域で助け合っていたが今は機能していない</li> <li>・子育てしている人が孤立している</li> <li>・0～6歳児は子ども会に入れられないため孤立している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様化する家族形態で選択できるサービス</li> </ul>
<p>○財政</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・財政的に豊かであってほしい</li> <li>・人口減少による税収減で、行政サービスの向上が望めない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・優良企業が増える</li> <li>・モデルとする家族像を変える</li> </ul>
<p>○学童期の居場所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学童への期待</li> <li>・子育てのアドバイスが受けられる</li> <li>・児童館が必要</li> <li>・さまざまな教育機関を利用できると良い</li> <li>・学校施設の改修</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公的資金の導入</li> <li>・シニアの活用</li> </ul>

## 第1回懇話会におけるアドバイザー講話概要

第1回懇話会において、アドバイザーから自治体の合併について講話いただいた。講話内容の概要は以下のとおり。

- 合併に意義があるのではなく、意義のある合併を目指すことが重要である。
- 合併について考える上では、平成の大合併時とは少子高齢化による人口減少や経済状況など社会的な状況が違う。
- 鳥の目（俯瞰して全体を見る）、虫の目（近づいて様々な視点から見る）で尺度を変えて地域を見直す必要がある。
- 意義のある合併の事例として、愛知県豊田市の事例を紹介
- 人口減少社会による地域の問題解決へのアプローチは「課題解決型」「共鳴共感型」の2種類がある。どちらが正解ということではなく、地域の実情や問題状況から選択するあるいは組み合わせる必要がある。

January 24, 2017  
@新市まちづくり市民懇話会

# 小田原市・南足柄市の 合併を考える

首都大学東京 大学院 社会科学研究科 教授  
大杉 覚 博士(学術)

stohsugi@gmail.com / <http://satoru4789.wordpress.com/>

## 合併の意義とは？

1

国が行った平成の合併の検証では…

**「平成の合併」について (概要)**  
平成22年3月 大杉 覚

**合併の進捗状況等**  
平成11年以来、基礎自治体の行財政運営確保のために、全国的に市町村合併を推進  
平成11年～平成17年： 早期・財政措置(合併特例債の償還や合併調整費の期間延長)  
平成17年～ 道・県道事業の権限移譲等  
市町村数: 3,232(11,231)⇒1,730(4,231) となり、積極的進捗

**平成の合併の評価**  
合併の本来の効果が現れるまでには10年程度の期間が必要であると考えられ、現時点では短期的な影響の分析に止まらざるを得ないが、多くの合併市町村の行政・住民、また世論の合併への評価は大きく分かれている。

**＜評価の背景＞**

合併による主な効果	合併による主な問題点・課題
①専門職員の配置など住民サービス提供体制の充実強化	①異動後の旧市町村の活力喪失
②少子高齢化への対応	②住民の声が届かなくなっている
③広域的なまちづくり	③旧市町村の継承
④適正な職員の配置や公共施設の統廃合など行政効率の向上	④旧市町村地域の伝統・文化、歴史的な地名などの喪失

2

## 合併そのものに意義 があるわけではない

3

新たなステージに  
立った合併を  
"企業" する姿勢が  
求められる

4

都市内分権の視点  
～ダウンスケーリングの視点から～

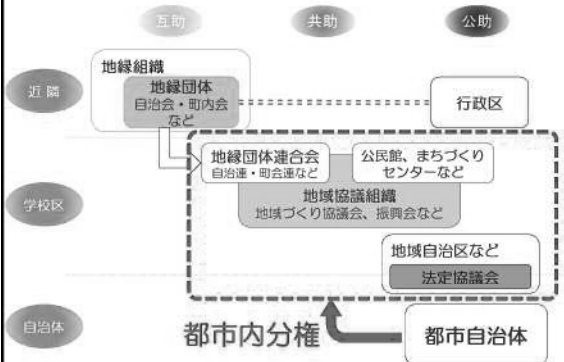
5

## 都市内分権とは

- 一般に、住民に身近なサービスを、住民により近い組織において、住民の参加と協働のもとで展開するダウンスケーリングした地域自治の仕組みのこと。地域（内）分権とも表現。
- 平成の合併時に、合併後の地域づくりで地域内分権を積極的に掲げる自治体が出現。
- 合併をしていない自治体でも都市内分権に積極的に取り組む都市自治体も多い。
- 地域分権条例（池田市、川西市）、自治基本条例（豊田市、上越市）など自治立法で位置づけ。

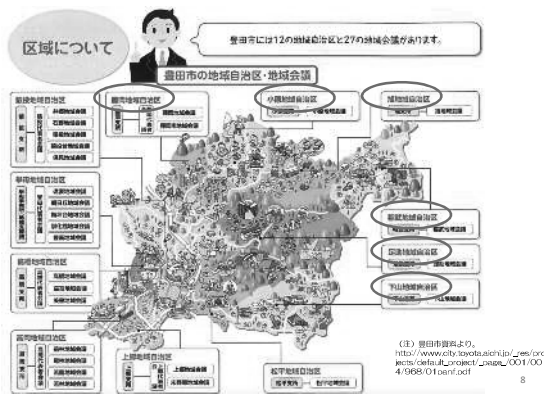
6

## 都市内分権で地域の厚みを向上させる



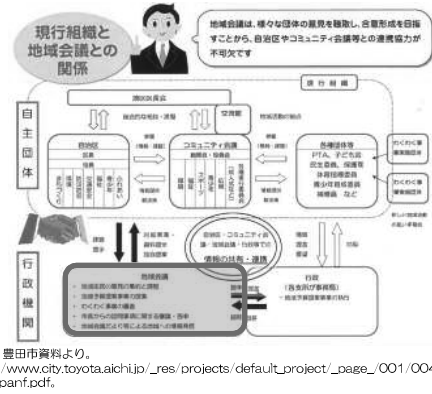
7

### 【事例】豊田市の地域自治の仕組み①



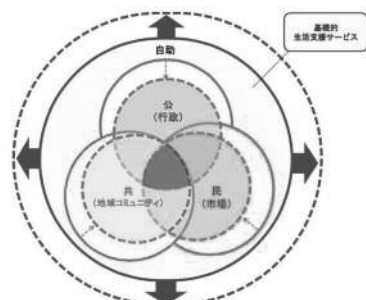
8

### 【事例】豊田市の地域自治の仕組み②



9

## 人口減少社会とは 地域が収縮し「隙間」が生じた社会？



（出典）総務省「暮らしを支える地域運営組織に関する調査研究事業報告書」

10

## アプローチⅠ：課題解決型 地域の「隙間」問題を課題解決する



- 需要の増大にもかかわらず、サービス供給機能は低下。自助に委ねられる「隙間」が拡大が、自助も劣化傾向。
- この「隙間」を問題として捉え、具体的な課題解決を図ろうとするアプローチ。

11

## アプローチⅡ：共鳴共感型 「ニッチ」をチャンスと捉える

- 課題解決というよりも、新しい可能性を試す場・機会と捉える。
- 創造的な取り組みを促す。
- 連携・交流を促し、効率性・即効性といった「都市・ビジネスの論理」よりも、「居心地の良さ、精神的な豊かさなど、「田舎・生活者の視点」を重視した、共感の関係を築く。

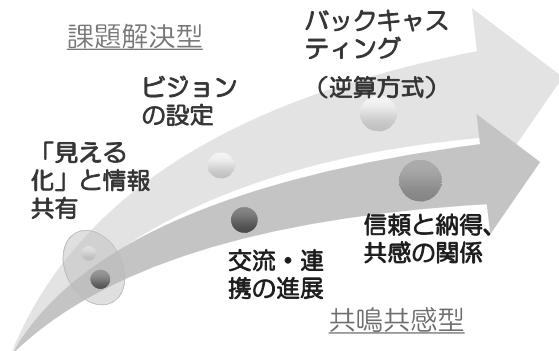
12

## 2つのアプローチを適切に選択・組み合わせる

- いずれかのアプローチが「正解」ということではない。
- 地域の実情や問題状況、タイミングなどから選択する、あるいは、組み合わせる。
  - ✓ 例えば、移住・定住対策では、都市型地域コミュニティであれば、課題解決型のアプローチによる「千客万来」方式が良いが、農山村型地域コミュニティでは、共鳴共感型の「選択歓迎」方式が好ましい。

13

## 人口減少社会への2つのアプローチ



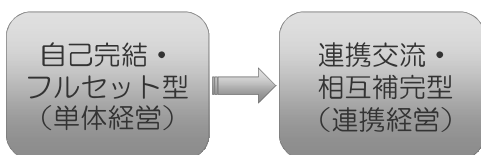
14

## 自治体間連携の視点 ～アップスケージングの視点から～

15

## 自治と「連携経営」の可能性

- 求められる自治体経営のモデル・チェンジ



自律的な自治体どうしだからこそヨコの「対等・協力」関係が可能

16

### 新たな広域連携について

- ・ 人口減少社会においても、全国の市町村が、地方自治体として持続可能な形で行政サービスを提供していくためには、近隣市町村との有機的な連携による活性化が必要。
- ・ そのため、地方自治法を改正し、地方公共団体間で「連携協約」を締結できる新たな仕組みを導入。
- ・ この連携協約を活用し、連携中核都市圏の形成、条件不利地域における都道府県による市町村の補完、三大都市圏における水平的・相互補完的、双務的な取組を実現。

#### 【具体的な事例】

<連携中核都市圏>  
連携中核都市(※)とその近隣市町村の連携  
(1)経済成長のけん引、(2)高度都市機能の集積・強化、(3)生活圏連携サービス向上をねらい  
※人口増加率、新中核市(人口増加率)以上  
※人口増加率(人口増加率)以上

#### 【具体的な事例】

<都道府県による補完>  
条件不利地域等で、市町村間の広域連携が困難な場合は、都道府県による補完も選択肢

#### 【具体的な事例】

<双務的な役割分担>  
同程度の規模・能力がある都市の間で、水平・相互補完的、双務的な役割分担を促進

17

現行の事務の共同処理の仕組み（概要）	
共同処理制度	制度の概要
連携協約	地方公共団体が、連携して事務を処理するに当たっての基本的な方針及び役割分担を定めるための制度。
協議会	地方公共団体が、共同して管理執行、連絡調整、計画作成を行うための制度。
機関等の共同設置	地方公共団体の委員会又は委員、行政機関、長の内部組織等を複数の地方公共団体が共同で設置する制度。
事務の委託	地方公共団体の事務の一部の管理・執行を他の地方公共団体に委ねる制度。
事務の代替執行	地方公共団体の事務の一部の管理・執行を、当該地方公共団体の名において、他の地方公共団体に任せられる制度。
一部事務組合	地方公共団体が、その事務の一部を共同して処理するために設ける特別地方公共団体。
広域連合	地方公共団体が、広域にわたり処理することが適当であると認められる事務を処理するために設ける特別地方公共団体。国又は都道府県から直接に権限や事務の移譲を受けることができる。

**目的意識を持ち、意義のある合併を目指  
すことが重要**

第2回	平成29年2月14日(火) 午後7時00分～9時00分
	小田原市役所601会議室

「小田原市の良いところ・悪いところ」及び「南足柄市の良いところ・悪いところ」をテーマにグループごとに話し合った。

### 主 な 意 見

#### 小田原市の良いところ

○豊富な自然と地域資源に関する意見

海・山・川など豊かな自然があり、農産物や水産物など他地域に誇れるものがある

○地域の歴史・文化に関する意見

歴史や文化を感じることができる観光資源がある。小田原城や小田原漁港などの観光スポット、かまぼこや梅干、木工製品など名産品がある。

○交通に関する意見

新幹線を含めた複数の鉄道が乗り入れる小田原駅がある。車では、東名高速道路などへのアクセスが良い。

#### 小田原市の悪いところ

○産業・観光の地盤沈下に関する意見

駅前に活気がなく、商店街が寂れている。地元で働く場所が無い。

○少子高齢化に関する意見

若い世代の流出による人口減少と高齢化が進んでいることもあり、自治会や子ども会が縮小している。

○公共施設に関する意見

市立病院など公共施設が老朽化している。

#### 南足柄市の良いところ

○豊富な自然と地域資源に関する意見

山や川など豊かな自然があり、企業誘致ができるほど水資源が豊富。

○観光資源に関する意見

最乗寺や金時山、夕日の滝が有名。金太郎の知名度は全国区。

○交通に関する意見

東名高速道路などへのアクセスが良い。大雄山線が慣れると便利。

#### 南足柄市の悪いところ

○医療に関する意見

大きい病院が無く、小児科や産婦人科が少ない。小児医療費の助成の範囲が狭い。

○交通に関する意見

バスなどの公共交通の便数が少なく、車が無いと生活できない。都心に出るのに不便で会社や学校が都内だと通うのは厳しい。

○生活に関する意見

買い物をする場所が少ない。街灯が少なく暗い場所があり不安。



1・2班の小田原市の良いところ・悪いところ



1・2班の南足柄市の良いところ・悪いところ



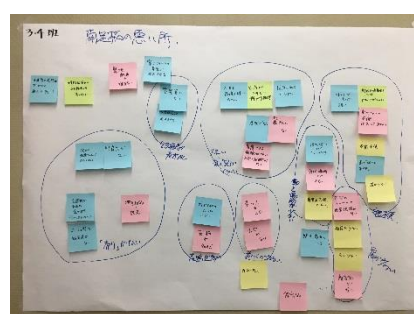
3・4班の小田原市の良いところ



3・4班の小田原市の悪いところ



3・4班の南足柄市の良いところ



3・4班の南足柄市の良いところ



良いところ	悪いところ
<p>○交通 新幹線等の鉄道の便が良い 観光地へ出やすい 東京・新宿まで電車で1本</p>	<p>○駅前 駅前商店街の閉まる時間が早い 大きな駅なのに駅周辺が衰退し、駅ビルしかない 駅から施設が遠い 道路が複雑（一方通行）</p>
<p>○観光 小田原城など歴史的なものがある 小田原城リニューアルで力を入れている 緑が残っていて海もある 山あり海あり四季が楽しめる 港があり、おいしい魚が食べられる 梅干・かまぼこが有名、いろいろな名産品がある 箱根に近い、余暇を楽しむ場所が身近にある 散歩コースがたくさんある 箱根駅伝の中継所 提灯型の街灯が良い 景観条例</p>	<p>○防災 直下型の地震の可能性がある 防災対策 街灯が少ない場所がある</p> <p>○企業 企業撤退 大企業（工場）が少ない、出ていってしまう</p> <p style="text-align: right;">人口増に消極的？</p>
<p>○教育 小規模特認校（片浦小学校）のモデルケース コミュニティスクールの導入 放課後子ども教室の推進 学校・公園が多い いじめ対応フロー、いじめ対応基本方針を定めている</p>	<p>○教育 公立幼稚園が少ない、南足柄市は多いので合併したら不安</p>
<p>○生活 温暖な気候、自然あふれるまち 人が穏やか 意外と市外から引っ越してくる人が多い 地域社会との結びつき 最低賃金が高い 行政・民間共にまちづくりに熱心な人が多い 自治会ごとの美化活動が良い ごみ捨てが楽、分別が細かいのが良い 市民交流センターUMECOの役割 情報量が豊富 地域活動が盛ん 近所付き合いが残っている、顔見知りが多い</p>	<p>○生活 自治会や地域の役員を引き受けてくれる人が少ない 世代交代が進んでいない</p>
<p>○医療・福祉 ケアタウン推進 総合病院がある</p>	<p>○医療・福祉 市立病院が古い 総合病院が少なすぎ 貧困対策できていない</p>
<p>○自然 景色が良い 海・川・山がある 富士山が見える</p>	<p>○イメージ 公営ギャンブル（競輪）がある</p>
<p>○イベント 花火大会・夏祭りなどイベントが多い 多くの祭り・神輿がある</p>	